

「小浜市コウノトリビジョン」(概要版)

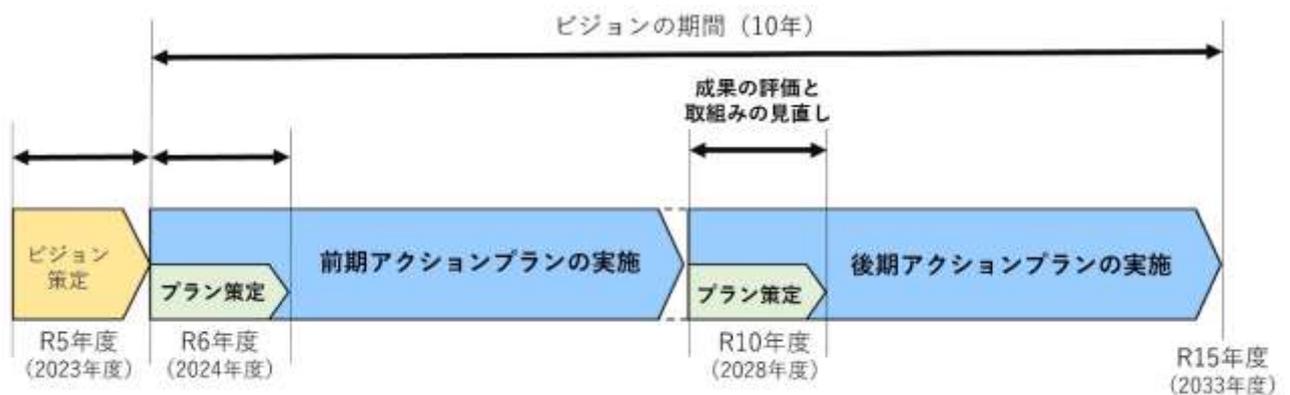
1 ビジョンの背景と趣旨

本市では、平成14年に「食のまちづくり条例」を制定し、ウェルビーイング(=食で人々の幸せと地域の豊かさが実感できるまち)をキーワードに「食」のまちづくりを推進している。食文化を育む基礎となったのは、地域の豊かな自然環境であり、国の特別天然記念物コウノトリもその一つである。

本ビジョンは、小浜市に縁の深いコウノトリをシンボルに「食」のまちづくりを支える豊かな自然環境を保全し、次世代に伝えることを目指し策定する。

2 ビジョンの期間

令和6年度から10年間とし、令和6年に具体的な取組項目を定めたアクションプランを作成し、5年後の令和10年度に見直しを行う。



3 現状と課題

(1) 小浜市へのコウノトリの飛来と繁殖

現状 ・国富地区に設置された人工巣塔3基のうち1基でコウノトリのペアが繁殖し、令和3年に57年ぶりとなる3羽のヒナの誕生と60年ぶりとなる巣立ちが確認された。

課題 ・現在、通年定着しておらず、繁殖期以外の餌量が不十分である。
・安定的な定着のために、餌場環境整備が求められる。

(2) コウノトリの餌場環境整備

現状 ・市内に水田退避溝2箇所、水田魚道7箇所、お魚ステーション1箇所、ビオトープ3箇所を整備。

課題 ・山際や谷奥などの耕作されていない水田を自然度の高い水田(ビオトープや退避溝等)として整備していくことが求められる。
・減農薬や有機栽培等、環境に配慮した米作りが求められる。

(3) コウノトリをシンボルとした多面的取組み

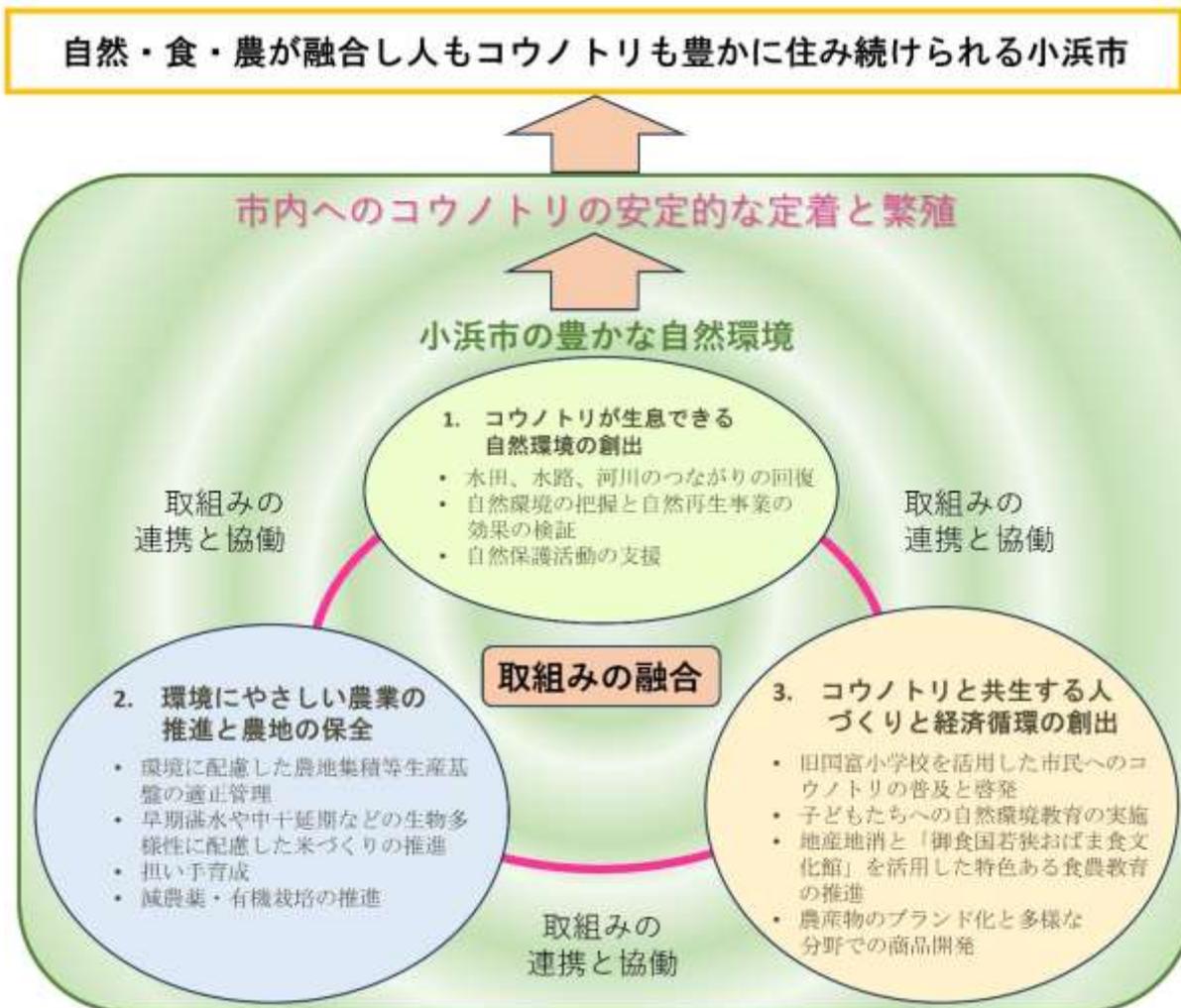
現状 ・地域団体と協力し、環境教室や生き物調査を実施。

課題 ・農業者の高齢化が進み、担い手が不足している。
・コウノトリをシンボルに、ブランド価値の高い商品(農産物加工品や伝統工芸等)を開発することが求められる。
・自然環境の大切さを市民に普及・啓発していく必要がある。

4 ビジョンの基本方針（全体イメージ）

ビジョンの目標を「自然・食・農が融合し人もコウノトリも豊かに住み続けられる小浜市」とし、その実現に向けて、以下の3つの基本方針をもとに取組みを推進する。

【目標】



【参考】小浜市とコウノトリの歴史

和暦	主なできごと
昭和32年～35年	羽賀区にてコウノトリが繁殖。
昭和36年	羽賀区で2羽の雛が巣立ち。国内最後の巣立ちとなる。
昭和39年	栗田区で2羽がふ化するも死亡。国内最後のふ化となる。 国富小学校コウノトリ観察クラブが発足。
昭和41年	営巣中のオスが農薬中毒で死亡し繁殖失敗。
平成23年	国富地区で「コウノトリの郷づくり推進会（コウの会）」設立。
平成30年	小浜市にコウノトリが長期滞在。国富地区に1号人工巣塔設置。 国富小学校による観察・保護活動が環境大臣賞受賞。
令和2年	新たに国富地区に2号人工巣塔を設置。
令和3年	コウノトリのペアが産卵。3羽の雛が57年振りにふ化し、60年ぶりに巣立ち。
令和4年	コウノトリのペアが産卵。4羽の雛がふ化し、巣立ち。 国富地区に3号人工巣塔を設置。
令和5年	コウノトリのペアが産卵。4羽の雛がふ化し、うち3羽が巣立ち。

参考資料：福井県小浜市におけるコウノトリ繁殖の記録、保全の取り組みと課題。野生復帰（2022）10:11-19。